広報
さめがわ

1973
2月号
No.231
編集兼発行
鮫川村総務課
鳥町 佐藤印刷所



われら青春・成人のよろこび

今年成人の日に招かれた若人は男女181名、前年を上廻る盛況で、それぞれ一人前の社会人になつた男性は身も心もたくましく、女性は更に美しさを加えて、式場の公民館もかつてない豪華な雰囲気に包まれました。

成人証を手にした若人たちは、晴れの門出によろこびもひとしおのようで、杯をあげての乾杯にも社会人としての責任の重さをかみしめていました。

- ⊙ 1日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日
- ⊙ 21日　納税表彰式
- ⊙ 28日～3月13日　春の全国火災予防運動旬間
- ⊙ 第3日曜日は『家庭の日』です

今月の人口

（2月1日 現在）

人口	6,334	(＋1)
男	3,184	(－1)
女	3,150	(＋2)
世帯	1,194	(－3)

春の火災予防運動

慣れた火に新たな注意

二月二八日～三月一三日

一年間のうちで、二月から五月にかけては、もつとも火災の多い季節です。強い季節風が吹き、空気が非常に乾燥し、気温もあがるからです。一寸した油断、不注意から思わぬ大火になります。

お宅の火の元、家のまわりは、だいじょうぶでしようか。

昨年発生した火災件数は三件で出火の原因はたばこの不始末、石油器具の取扱い不注意によるものでした。

皆さんひとりひとりの注意が大切です。火の元、火の取扱いには十分心がけ、小さな火にも細かい注意と気をくばる必要があります。「めんどうくさい、あとでみる」これが火事のもとです。思うだけ、考えただけでは予防できません。

心で思つたら　まず　実行
頭で考えたら　まず　実行

みなさんの不断の心がけと実行によつて、火災のない明るい家庭楽しい生活を築きましよう。

（白河消防署鮫川出張所）



おらの歩み (22)

福島県町村会の沖縄訪問団の一員に選ばれ、二月二日から四日間復帰後の沖縄を訪問する機会を得ました。

羽田から那覇まで、一六四〇Kをジヤンボジエツト機は二時間半ほどで飛びましたが、ここは南国常夏の島、木々は新緑の色も濃く、気温は六月頃の暑さで、一行はしきりに額の汗を拭きました。

那覇空港から宜野湾市のヒルトンホテルまで、左右は商店街のほか、すべて米軍の施設か米軍人の住宅で、空地は芝生が敷きつめられ、戦前は田であり畑であつたと思われるところ、今は耕地の跡すらなく、まさにリトルアメリカという感じであります。

時差は凡そ一時間近くかと思われ、午後六時すぎても真紅の太陽が紺碧の洋上に輝き、壮麗な夕映えを見せていました。

われわれ一行は、外国によつて占領された地域を初めて見たわけですが、「被占領地」の現実にふれて慄然とした気持を押えることができなかつたのであります。

それは土地も人民もすべて占領者によつて支配されることでありそれが人間の魂の支配と同化に連

本土に復帰した新生沖縄

村長　石田卯子八

そして平和の尊さを思い知らされる想いでありました。

本島南端の摩文仁の丘は、中部西岸から上陸した米軍の物量的な戦力に追いつめられた日本軍が、最後の死力をつくして戦つた所で牛島司令官初め将兵学徒までが自決して果てた所でもあります。

この地を中心に、黎明の塔、ひめゆりの塔、健児の塔などの慰霊塔が建ちならび、各県の塔も建つております。

ふくしまの塔は、郷土磐梯山を象徴した造型の塔で、われわれは花束を献じ、供物を供え、深く頭を垂れて、県出身軍人軍属の英霊に感謝と冥福の祈りを捧げました

私は、かつて青年学校長時代の生徒であつた若い人たちのみたまが眠つていることでもあり、追懐してしばらくは立去ることができませんでした。

沖縄は既に本土に復帰した。しかし現実にみる沖縄は、依然として田も畑も山も多くは基地米軍の使用する所のようです。

しかしまた、米軍の去つたあとの沖縄がどうなるかを考えるとき、リトルアメリカ化した沖縄の生きる途に、大きなヂレンマを感ずるのであります。

土地はやせて狭く、僅かばかりの水田も見たが、稲株の貧弱さから想像する米作は将来に期待をもてるものではなく、沖縄農業の主要作目であるサトウキビとパイナツプルの畑も面積は少く、反収四万円前後の粗収入では、気の毒というより外はないのであります。

地方自治体も当面は基地と観光に重点をおかざるを得ない実情であることを、視る人たちも一様に感じとつたところであります。

人事

（昇格）一月一日付

・村長部局

主事補　藤田　洋美

主事に任ずる

・農業委員会

局長　芳賀　栄郎

二等級から一等級に

おめでた

十二月

発地岡　高野　治夫　父　博光
滝平　円井　強　〃　満正
婦知女賀　高木智明　〃　知一

一月

道少田　石井　順　父　富士男
草牛　田子　和昭　〃　一夫
木戸沢　鈴木　誠　〃　正孝
虹ケ沢　矢吹　一恵　〃　肇
岡田　藤田　貴子　〃　芳美
大久保　中川西悦子　〃　源逸
塩倉　矢吹　俊幸　〃　俊次
赤柴　関根　慎治　〃　英也

おくやみ

十二月

新宿　大池　義典　44才　義閉　世帯主

一月

前田　金沢みどり　5才　利雄
彦次郎　鈴木　幸吉　72才　幸夫

商工青年未来を語る

村長を囲む座談会

……経済機構も複雑多様化し……
……消費生活圏もいよいよ広……
……範になり、農業問題同様……
……に農山村に在る商工業の……
……将来について真剣に考え……
……なければならないおり、……
……鮫川村商工会青年部の役……
……員が昨年に続いて、村長……
……を囲み、座談会を開催し……
……ました。

先づ湯坐青年部長のあいさつに続いて、石田村長から次のようなあいさつがありました。

村長　今日は第二回の話し合いであるが昨年は六名の方から有意義な要望があつた。その後の経過について報告しておきたい。

1. 駐車場の設置について

駐車場は必要であるが用地の確保が容易でない。それで交通の安全を図るため、警察署や関係地域の皆さんと協議のうえ、隔月片側駐車禁止の規制を行うことにして交通の安全と確保を図つている。

2. 河川の清掃美化運動について

区長会、組長会等で趣旨の徹底を図り、道路愛護作業のほかに、河川愛護の日を設けて実施することにした。また昨年は、商工青年部の役員諸君も参加し、議会議員役場職員が率先して河川の清掃作業を行つたので、河川清掃の気運は次第に盛りあがつてきた。

3. 青年の集いについて

働く青年の集会を特にもつことはなかつたが、公民館主催の青年学園で大いに意志の疎通を図つている。（以下略）

懇談は各部門ごとに、代表者が質問して、村長が答えるという形ですすめられました。

出席者（順不同）
村長　石田卯子八
（商工青年部）部長湯坐啓亘
須藤　泰助・宗田　文男
橋本　正嗣・蛭田　彦忠
矢吹　寛・須藤　宏
大楽　勝弘・藤田隆千代
鈴木　一・市川　正尚
白坂　真平・湯座　良政
（商工会事務局）田子　政芳
青戸カツ子

小学校統合の気運高まる!!



白坂　中学校は統合したが、小学校の入学児童は年々減少しているので、小学校の統合も考える時期に来ていると思うが。また鮫小の今年の入学児は何名でしようか。

村長　鮫小は以前五〇〇名程の児童数であつたが、現在は二五〇名程度で、今年の入学児は三五名、昭和五〇年度の入学児は二八名程度と推定される。

あまり遠くない将来一〇〇名以上の小学校は鮫小だけになる。

学校はある程度以上の児童数がないと本来の機能が発揮できない戸草分校、東野分校、富田小は複々式学級にならないうちに統合を考えるべきではないかと思つている。

しかし、社会構造の面から第一次生活圏の姿として、一次的な生活圏域の中心に小学校があるのが望ましい。

本村は、地形上西野、西山、渡瀬、青生野そして中央部と第一次生活圏は五圏域に分けて考えるのが自然である。



須藤（泰）一番生徒数の多い鮫小に、屋体やプールがないが…

村長　昨年は渡瀬小にプール、西野小に屋体を建設した。

鮫小は分校などの統合をひかえているのでその方を先決としたい統合の場合は建築費の補助率も高いし、起債も容易なので、財政負担が軽くてすむ。従つて本校舎を含めた完全な整備が可能になる。

しかし、統合にはいろいろな問題があるので、関係者の理解と熱意が大いに必要である。



大楽　起債はいずれ返さなければならないので、返済の見とおしがないとあまり借りることができないのでは……。

村長　起債の償還年限は大体一〇年から一五年位であるが、全額を村税などの自主財源で返すわけではなく、ある程度返済分は地方交付税で補われる。災害復旧債などほぼ全額近く交付税で補てんされる起債もある。本村は見とおしをたて計画的、効率的な起債をしているので、返済についての心配はない。

（編集者註。起債に対し国で、公債比率という一定の標準限度を示しております。この比率は「二〇・〇%」で、本村の起債の累積比率は四六年度で五・四%、四七年度は六・〇%位の見込です。）

白坂　西野や西山小学校も鮫小に統合して、スクールバスを運行したらどうか。

村長　第一次生活圏の構造上の問題もあるし、また校長や教師の指導統率の能力にも限界があるので学校は大きければ大きいほどよいというものではない。

複々式授業にならない限り、西野小、西山小は存置したい。

市川　西山小学校に体育館や児童館ができると聞いているが……。

村長　四八年度事業として、西山小に屋体建設を予定している。

また敷地や一部負担など地元の協力を得て、児童館も四八年度に建設したい。季節保育所も児童館を活用するように計画したいと思つている。

須藤（泰）　旧高校分校舎はどのように利用する考えですか。

村長　旧高校跡地に武道館などを建てることも考えてみたいが、さしあたり公民館の附属建物として利用してゆく。

クローズアップされる
農政問題

望まれる特産物・畜産基地の造成
出稼対策に工場の誘致を!!

大楽　村の今後の農業政策についてお聞かせ下さい。



村長　いま農政問題は非常にむづかしい。国の農業政策もあまりはつきりしない現状である。しかし農村である以上村政の重点は農業問題におくべきであるという考えは変らない。

現在、農業収入と賃金収入を比較すると賃金収入の伸びが大きい一次産業である農業収入の確立増加を計らなければならないことは

もちろんである。
そのために、米作の収入増加は大きな期待がもてないので、特産物として葉たばこ、こんにゃく、高冷地野菜、畜産などの振興を図つてゆかなければならない。
村内に二〇度以下の傾斜地は約三、一〇〇ヘクタールある。地形地味、歴史的な背景などの畜産適地なので、現在の和牛一、〇〇〇頭、乳牛五〇〇頭を三倍位に増やすことを目標に進めたい。その前提として土地基盤の整備、土地改良を思い切つて進め、機械化協業化のできる農村環境を作らなければならない。農産物の加工販売機構も可能なものから着々実施したい。農業の指導普及面については農業改良普及所や農協の営農指導部が担当しているが、この際農協も一層充実した営農指導を行うよう期待したい。


米の収入増加は期待されないとしてもやはり米は村で第一位の農産物


湯座（良）　年々出稼が増えているので、村内に男子が働ける工場を誘致すれば出稼者が減ると思う。そのような工場を誘致してほしい。

村長　女子を対象とする中小企業の工場は増えたが、男子が働ける工場はまだ来ていない。村では農村地域工業導入促進協議会を設けて積極的に工場の誘致を図つている。
昨年、中高年令層の男子を雇用する工場の誘致がほぼきまりかけたところ、その会社が親会社と合併してしまつたため実現しなかつた。相手のあることでこちらの思うようには行かないが、今後共努力する。

時代の趨勢＝レジャー産業開発にゴーサイン


鈴木　観光開発の見通しについてお聞かせ願いたい。なお人工湖水、スケート場魚の釣り場等もよいと思うが…。

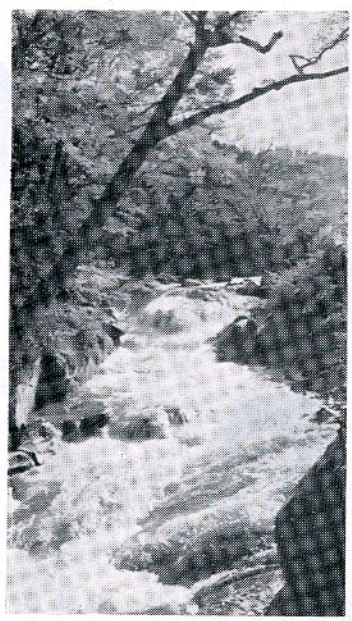
村長　観光価値のある強滝の向い側に遊歩道を作る計画はもつている。そこにバンガローやキャンプ場等を設置するのも良いと思う。
人工湖水については無理があろうが、江竜田の滝の下流に砂防えん堤を作る計画があり、測量の段階に入つている。このえん堤を多目的ダムに活用できないこともないと思われる。

鈴木　もとの山村道場はどうなつているか。そこを青年の森にでもしたらどうか。

村長　山村道場は、前々村長時代に個人に売却され、現在は個人所有になつている。

鈴木　国有林を払下げて観光農園的なもの、例えばアケビやワラビ等山狩りのできるものを開発しては……。

村長　そのような目的で国有林を払下げることはできないし、管理上の問題もあるので、これは個人企業で行けばおもしろい発想である。


このほとりに遊歩道の計画

湯座（良）　前回も話題になつたが、駐車場は是非必要だと思う。又新宿の下から畜産センター附近に通じる道路が必要だと思うが…。

村長　土地の提供者があれば、駐車場造成もできないことはない。しかし村営となると毎日特定の車に占領される恐れもあると思う。各商店が駐車場を設置してお客様にサービスをしながら、売上げを伸ばすことがよいではあるまいか。
保育所の幼児のためにも、新宿の下地内から畜産センター附近に道路を作ることは必要性が認められるが、相当多くの経費を要する

鈴木　強滝にモミジを育ててほしい。

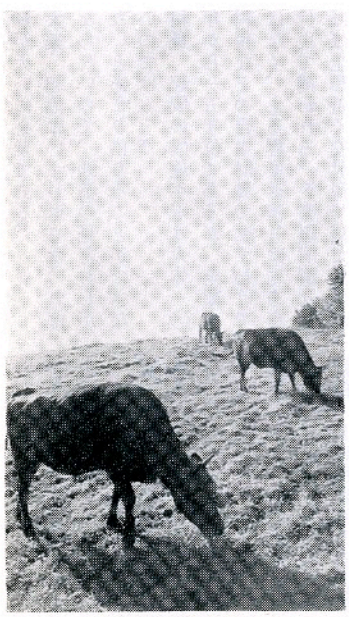
村長　観光の面からも苗木の購入について検討してみたい。

鈴木　レジャー施設を村で作つてほしいと思うが……。

村長　レジャー施設が必要な時代になつてきたが、今のところ税金でボーリング場をつくることもどうかと思う。現在湯の田地内に老人保養センターを建設中であるがこれもそのような意味をもつ施設である。

湯座（良）　衛生車とゴミ収集車の運行回数を増やしてほしい。

村長　東白川管内町村で東白川地方衛生処理組合を作つて運営しているが、広範囲のため要望にこたえきれないようである。環境衛生向上のため皆さんの要望に添うよう車の増設を計画したい。


期待される畜産業の振興



成人の日に一言

赤坂西野　鈴木幸子



一月一五日、今日の日を認識するようになったのはつい二～三年前のことであり、まだまだ私には、遠い未来のことのように思っていましたが、高校を出てからの二年間というものは、あつという間に過ぎてしまい、古いことを云うようですが、夢のような出来事のように思われます。

私もこの日が来るまでに、自分なりに世間というものにふれ、苦労なり楽しさなり、いろいろ経験してきました。しかしこれからの長い人生に比べたら何分の一かも知れません。私は困難に会うと時折り生きて行くという事は大変な事だなと痛感します。

私は、成人と云う意味を辞書で引いて見ました。第一に「一人前に成長した人」「大人」「人格の完成した人」など三点が掲げられていました。

この中で一番気に入ったのが、人格の完成ということです。私は今まで大人はほう慢でとかく自己主張が強く、世間の大人を見るたびに自分もだんだんとそんな世間に触れ汚れて行くような気がして子供だつた日や、学生時代を思い出してしまつたりします。

だから成人を迎えて思うことは大人だと云える真の人間性はこの人格の完成にあると同時に、発言に責任が伴なうと云う事だと信じて疑いません。

成人を過ぎれば世間は大人としての目で見るわけですから、甘えてもいられないし、一人立ちするのは大変なことです。けれども私達は今正に青春の時、一人でやりたいこともいつぱいあるでしょうし、二人で築く結婚もこれからの事です。

私は、この日に当つて今でなくてはできないという事をしたい。たとえ夢で終つてもかまわないと思うのです。大きな夢や希望をもつて、全身でその希望に情熱を燃やし悔いのない青春を送りたいと思います。

この晴やかな成人の日に当り、私は希望でむねがいつぱいです。同時に「お父さん、お母さんほんとうにありがとうございました。」と心から感謝申し上げます。

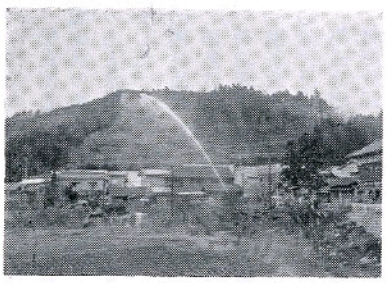
簡易水道

試験給水中は飲料以外に使つて下さい

村の簡易水道事業は二ヶ年継続で工事をすゝめていますが、本年度の工事も順調に進み、各申込家庭の給水装置工事は二月末日までに完了の見込みです。なおこれからでも給水の申込みが出来ますから希望の方は住民課水道係に申込んで下さい。

給水装置工事については従来の家庭ポンプと給水管を切断し、簡易水道給水管を直結する家庭もあるため使用水に不便を来すので水道水を強度に滅菌して給水することにしております。保健所の指導により、配水池内、配水本管、給水管内の消毒を兼ねて給水するので、今のところ飲料水には適しません。強度の滅菌薬が注入されていますから注意して飲料以外に使用して下さい。

給水工事が完了次第、県の水質検査をうけた後、許可をまつて四月から本格的給水が開始されます



簡易水道消火栓の放水テスト（広畑地内）

成人となつて

大字西山　松崎照子



今日ここに成人式を迎えることができうれしい気持でいつぱいです。と共に責務の重大さを身にしみて感じます。早く大人になりたいと思いながら過してきたあの頃の日々を、幼き日のあの頃を、今思いばなつかしく、またあの頃のままであの頃の姿のままでいたいと思いたい心境です。

社会的に一個人として認められるようになり、法的にも選挙権が与えられ、有権者の一人として社会に対して責任というものの重さを通感せずにはおれません。

私も、昨年一二月一〇日の衆議院議員選挙には初めての選挙権が与えられ、人並みに貴重な一票を投じてきました。その日も私は家人から「初めての選挙権の行使で支持派は……」なんて云われましても、実感として湧くものではありません。

過日の選挙においても、投票用紙に候補者の名前を記入して、始めて「ああ、私も国民の一人として、大人として世に認められるようになつたのだなあ―。」と痛切に感じました。高校を卒業してから二年、半年は東京生活、半年は病院生活、八ヶ月は家に何をすることもなく過ごし、ようやく現在の職（メリヤス縫製）に就き二ヶ月が過ぎました。

そんな訳で、社会の荒波というものもそれ程わからず、成人式を迎えるに至つてしまいました。

成人になりましても、心配や悩みは尽きません。いや、成人になつたからこそ、それ以上のものがあるのかも知れません。

私達二〇才になりました若者達の前途を国民全体から祝福され、成人の証を手にしましたからには社会人となつた責任の重大さを十二分に自覚し、社会の秩序を乱すことなく一生懸命努力し、貢献して行きたいと思います。

消防出初式
堂々の分列行進

一月六日　新春の朝風をきって鮫川村消防団恒例の出初式が挙行されました。

先ず午前八時三〇分消防自動車七台に、今年は常備消防署鮫川出張所の消防車、広報車も加わり、役場前で分列行進の後、新宿、道少田、広畑をパレードして消防団の偉容を披露しました。

続いて出初めの式に入り、村長の通常点検を受けた後、団長の無火災を誓う心強いあいさつがあり次に村長の訓辞がありました。

優良団員、無火災分団の表彰、感謝状の贈呈があり、来賓の祝辞のあと水勢披露があつて式を終りました。

○優良団員
　国島武士　江田一夫　水野茂男
　菊地末次　前田　栄　赤坂虎男
　瀬谷政義

○無火災分団
　第五分団（東石）七年継続
　第四分団（渡瀬）五年継続

○感謝状
　消防活動協力者
　　塙　町　金沢邦男
　消防団活動費寄附者
　　西野　高坂フミ　北条正敏


堂々の分列行進


多数の来賓の出初式の消防

振興計画 アンケートのまとめ

村内全戸に配布して回答をお願いしましたアンケートの集計が、まとまりましたのでお知らせします。数字は紙面の都合上、番号を付した合計数のみ掲載します。回収率は七八七枚で七〇・三%でした。

村の産業振興

農林業の振興をはかる（三四九）、工場を誘致する（二一七）、観光レジャー施設をつくる（四九）回答なし（七八）

社会福祉

老人いこいの家をつくる（三〇七）、村民保養センターをつくる（二一七）、保育所をふやす（七八）、心配ごと相談所に専門相談員をおく（六九）、保健婦をふやす（三四）、回答なし（八二）

農業振興

林野を開発し農用地を増加する（二二九）、ほ場を整備する（一五七）、農業生産物の加工場を設置する（九四）、農業機械、集荷所、畜舎等の近代化施設を設置する（六一）、協業経営を行なう（四七）、観光農園等を設ける（二九）、新しい作目を導入する（二四）、現在の農業の在り方でよい（二三）、回答なし（一二三）

林業振興

林道、作業道を開設する（四四九）、林業の長期経営計画をつくる（八五）、特殊林産物を生産する（六九）、部分林、分収林を設ける（一七）、桐その他の特殊樹種を造林する（一四）、木炭、工業炭の生産を行なう（八）、回答なし（一四五）

学校の施設

体育館、水泳プールをつくる（二三一）、小規模な小学校や分校を統合する（二一九）、幼稚園をつくる（一四一）、現状のままでよい（六九）、回答なし（九七）

学校給食

今までどおりでよい（三三五）米飯にする（二四三）、おかずだけでよい（一〇一）、必要ない（一一）、回答なし（九七）

教育費（給食費を含む）

出費が多い（三一七）、あまり多いとは思わない（二八五）、回答なし（一七五）

元気で頑張っています



西山字鍛治平出身の坂本喜一さんは、昨年の八月、陸上自衛隊郡山第六特科連隊に入隊しました。入隊してまだ六ケ月ですが規律ある団体生活によって、立派な社会人としての資質が養成される自衛隊に入隊したことに誇りをもち、毎日楽しく元気に頑張っていますと、近況を知らせてきました

婦人少年補導員募集中

二五才以上三五才までの女性
資格＝高校卒以上で心理判定保母、教員などの資格を有する者
受付＝三月一日から三月一三日まで
詳しいことは棚倉警察署又は駐在所に問い合せて下さい。